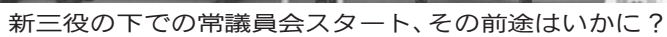


発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話  
03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
発行人 内藤 留幸  
編集主筆 竹澤 知代志



# 第1回常議員会

第37総会期第1回常議員会は、何重もの意味で画期的なものとなった。先ず、陪席、傍聴者の野次が全くと言って良いほど無かった。いったい何十年ぶりのことなのだろう。次に要求陪席をなくし、教規に合わせて傍聴とした。これは会議制の回復という観点からは些末な変化ではない。何よりも、2日間、議会の大半を直接「伝道そのもの」を巡る一議論に充てた。しかし一方で、全数連記の投票によって誕生した常議員会構成を危惧、批判する声は高い。真価が問われるのは今後のことだ。

が述べられた。常議員会の具體的運営については「教憲教規に則つた運営を貫きたい。要求陪席という慣習はない。教規にないてゐるので、今後は傍聴として扱いたい」とのの方針が示された。

この件では「紛争後の大きな転換点。議決を以て確認するべき」との意見が出た一方「教規に則つた運営に回歸するのだから議決は必要ない」との見解も出されたが「陪席者に関する件の議事において確認する」ととなつた。

その他「今総会期、北村  
慈郎元教師の問題に触れず  
にいくのか。聖餐執行を巡  
る諸問題は終わっていない  
か。伝道と関わりつつ」  
「教団信仰告白に堅く立つ  
ことを再確認したい」「審議  
未了廃案となった39号議案  
について、内容の意味する  
ところは重い。今総会期常  
議員会で深めるべき」「伝道  
所問題は、議長が率先して  
道を開いて欲しい」「教区の  
多様化、温度差の問題。教  
団が教区を置くということ  
を確認したい」などの意見  
が相次いだ。

尚、会議を礼拝で始める  
べきとの要望が出され、次

回より実施することとなった。

議事第1号「陪席者に関する件」では、要求陪席は教団規上存在しないので認めない。傍聴は教団所属の教師と信徒に限定し、事務局に届け出の上、議場の承認を必要とする。資料等は配布しないことが確認された。

総会に関する件」では、壇上への詰め寄りによる議事妨害と京都教区議員有志の志の退席問題について「退席する自由と権利はある。しかしその後も留まり続け、横断幕によるパフォーミング等、議場を侮辱するやり方は許されない。議員資格のない者が議席に留まり続けた件も同様である」「京都教区の議員たちはフリー・聖餐執行を表明するセッションをつけてアピールしていた。そのままで北村氏との整合性がとれない」などの意見が述べられた。

その他「無断での印刷物配布や議場の動画撮影とネット流出の問題に対処すべき」、傍聴席の状況について「ヤジ」と書かれた紙を持ったパフォーマンスはエスカレートしてい

き、議場の声が聞こえないほどひどかった」「聖餐を侮辱する行為があり、注意した者に暴力がふるわれた。今後傍聴を認めないなど、毅然とした態度で臨んで欲しい」等の指摘があった。

議事第5号 総幹事報告」

ては、主に内外諸教会との関係、兵庫教区訪問について、北村慈郎氏による東京地裁への地位保全の申し立てに對する教団の対応について質疑が集中した。特に、北村氏の申し立てについては、教団側は代理人の弁護士を立てて、総務幹事を中心に対応にあたつてゐると報告された。

議事第6号「常任議員選出の件」は、議長推薦により、藤掛順一、大村栄、長崎哲夫、高橋潤、岡田義信、望月克仁、小林貞夫の各常議員が選出された。

議事第7号「幹事任用に  
関する件」は原案通り承認。  
第8号「常設委員、常設専  
門委員」、第9号「宣教研  
究所委員」の各選任に関す  
る件は、選考委員会提案の  
原案通り承認。その他につ  
いても、別記の通り委員等  
が選出された。

第19号「春季教師検定合格者」、第20号「キリスト教教育主事認定試験合格者」の名承認に関する件は、三役一任。第21号「部落解放センター規約変更」は、今総会期の運営委員会選出を待って、継続となった。

(林牧人報)

(林牧人報)

石橋秀雄



昨年12月16日映画配給会社「プレジディオ」からDVDと原稿依頼が送られてきた。DVDには「アメイジング・グレイス」(2006年イギリス映画)とあり、マスコミ用資料としてジョン・ニュー

この映画は伝道の映画だと思銘を受け原稿を書きこんだ。

伝道とは

伝道とは

とは、「悔い改め」を起こさせることだ。

エフエソの人々はパウロが語る「驚くべき主の恵み」を知らされた時、罪の告白をしている。

「自分たちの悪行はつきり告白した」（同18節）

彼らは罪から解放された。そして、同時に自由にされたのだ。

エフエソの町は魔術が盛んな町であった。パウロの福音を聞いた

人々は「その悪行をはつきり告白」して魔術を捨てた。自分の生活の中心

であつた魔術の書物を、悔い改めて捨てて燃やした。

「その値段を見積もってみると、銀貨5万枚にもなった」(同19節)

魔術の書物は高価であった。銀貨5万枚は、膨大なこの世の価値を示している。この世の価値・

書物が燃やされた。

魔術がエフエソの人々の生活の中心にあるということは、同時に生活の不安、その不安を魔術の本に頼って克服しようとしていたというところにな

る。  
今まで生活の中心にあ

り、人々の心を縛っていた。この魔術から、人々は解放された。

生ける神の御言葉の力は人々の生活を変える。

魔術から、迷信から、わたしたちを縛るあらゆる苦悩から自由にする。

主の言葉が  
勢いよく

「このようにして、主の御言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった」(同20節)

ハウロではなく、人間  
の言葉ではなく、主の言  
葉が、「十字架と復活の主  
イエスの言葉が、ますま  
す、勢いよく広まり、力  
を増した」のだ。

御言葉が熱心に語ら

れ、御言葉が熱心に聞かれ、神への讃美が高らかに歌われる礼拝が捧げられる。この礼拝で熱くされた信徒が、熱心に証しをし、熱心に伝道する教会でありたい。

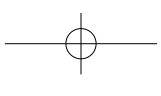
そして、日本基督教団

において「主の御言葉が  
ますます勢いよく広ま  
り、力を増した」と語り  
える「伝道する教団」に  
なっていきたい。

心から願い、  
祈る。

（第37總會期教団總會議長、越谷教会牧師）





教団をあげての伝道を！ 鈴木功男常議員

第 37 総会期  
第 1 回常議員会

伝道方策検討委員会設置を決議

閉塞打開へ具体的方策提言

常議員会への委託となつた第37回教団総会議案37号「伝道方策検討委員会を設置する件」が、常議員会議事第22号として上程された。

測が語られた。

提案理由1では、次のように非常に厳しい言葉で、切羽詰まった現況の打破が訴えられた。

「いわゆる教団紛争で」「伝道」が死語とされ、教団は「荒野の40年」を歩むこととなった。その結果、受洗者は減り、財務を含めた教会の体力は弱まっており、このまま推移させてはならない。この間、プロテスタント他教会には応分の成長をとげたところが多いのを見て、伝道の怠慢を主に懺悔しなくてはならない。

提案理由2では、教団の各委員会等で現状分析と将来予想がなされ危機感を共有していることが指摘され、「この機を逃してはなら

ない」とした。

提案理由3では、数字が雄弁に語る危機を克服するためには「教団をあげて伝道の方策を練り、体制を整え、試みを共有していくための中心点として、伝道を特別に検討する委員会は、どうしても必要である」と強調した。

提案理由4では、既存の伝道委員会の活動の現状に触れ、「伝道委員会には従来の申し送り事項をしばらく堅持する必要がある」ので、「教団が新しい伝道体制を模索するためには、このことを集約的に扱う特別委員会を速やかに設置する必要がある」と訴えた。

審議に入り問もなく、小林貞夫常議員が「伝道方策委員会設置について、伝道

そのものについて常議員の発言を求める」と提案した。これが認められ、ここから膨大な時間を費やして、新委員会設置の是非に留まらず、むしろもっと大きい視野での「伝道についてのビジョン」が語られる

こととなった。

別掲記事(3面)のように、常議員、出席の全教区議長、要請陪席の諸委員会委員長が、一人ひとり、常のような時間的制約もなく、5時間以上にわたりその思いを語った。

懸案の救援対策基金設置を議決

本常議員会の最後に、議長提案による議事第23号「救援対策基金設置に関する件」が上程された。

提案理由として議案書には3点が記された。①大規模自然災害に対し、その都度救援金を募ってきたが、災害の頻発の中で、教団として速やかに救援体制を

作ることが求められている。②第35回教団総会で兵庫教区総会より提案され、可決された第37号議案「いのちと暮らし、生存を脅かす自然災害の発生に備える件」の内容を早期の実行に移したい。③従来の「教団事務局規定細則第3条から5条」と並行して「救援対

策基金に関する運用規定」を設置し、災害発生時の救援の初動にさらに対応できるように取り組む。

さらに補足説明として内藤留幸総幹事より、上述の内容に加え、本議案が「阪神淡路大震災救援資金(第2次募金)残金使途に関わる提案であることから、そ

と懸念も表明されたにも拘わらず、「伝道方策検討委員会を設置する件」は、全員の賛成で可決された。

「記事の表現では、被災の当該教区との協議によって募金残金の使途を決したように解釈されかねず、趣旨が不明になる」との懸念や、「常議員会で終了が既に決議されているのに、未だ残金の返還がない理由について兵庫教区の見解を尋ねたいが、なぜ教区議長・三役の誰も出席していないのか」等の意見が述べられた。また予算決算委員会の立場から「金額が明記されるなら、確実に執行権者の手元になければならない」との指摘もなされた。

兵庫教区との対応について質問された内藤総幹事は、正式な会議決定ではないと断りつつ、「議案が決議されたら、兵庫教区は6000万円を返還することになっている」と答弁した。議決の可否をめぐって

は、総幹事の「拙速は避けたい」との発言を受けて一方で継続を求める声が上がリ、他方では「災害発生は予測不能だけに一刻も早く議決すべき」との強い意見が、正田國磨呂関東教区議長はじめ複数から表明された。

議案の扱いについて、岡本知之副議長はまず採決の動議を諮り、賛成多数で採決が承認された。この時点

の返金に関する兵庫教区との対応の経緯についても説明された。

議案審議では「運用規定(補則)第7条」で「この基金は、『阪神淡路大震災救援資金(第2次募金)』の内、その役割を終えたものから6000万円と、関東教区からの『新潟中越沖地震

は、総幹事の「拙速は避けたい」との発言を受けて一方で継続を求める声が上がリ、他方では「災害発生は予測不能だけに一刻も早く議決すべき」との強い意見が、正田國磨呂関東教区議長はじめ複数から表明された。

議案の扱いについて、岡本知之副議長はまず採決の動議を諮り、賛成多数で採決が承認された。この時点

で2つの修正案、「基金は2000万円をもってスタートする。運用規定は2011年4月1日から実施する」との北紀吉常議員案と「運用規定(補則)第7条は提案理由のなお書きにする」との大杉弘常議員案が提出された。採決の結果、修正案はいずれも少数否決、原案が賛成多数により可決された。

迅速な対応を！ 正田國磨呂関東教区議長

常設委員会等委員選考結果

常設委員会

【宣教委員会Ⅱ7名】

★張田眞(鳥居坂、加藤幹夫(阿漕)、田中かおる(安行)、白戸清(野辺地)、望月修(仙台広瀬河畔)、東島勇人(益田)、貝志堅篤(読谷)

【信仰職制委員会Ⅱ7名】

★小堀康彦(富山鹿島町)、菅原力(三町本郷)、○深谷松男(仙台広瀬河畔)、○須藤繁(谷村)、深井智朗(滝野川)、後宮敬爾(札幌北光)、田邊由紀夫(茨木)

【世界宣教委員会Ⅱ5名】

★木下宣世(西千葉、秋山徹(上尾合同)、横山好江(東京新生)、越川弘英(同志社大学)、清弘剛生(頌栄)

【社会委員会Ⅱ6名】

★金土達雄(七尾、森田恭一郎(遠州栄光、上森俊明(今津)、山本一(神戸多聞、柴田もゆる(廿日市、真壁

【出版局理事・監事】

【理事】★小島誠志(松山番

【監事・坐間豊】

○山本晃

【監事・勝田正佳、寺門文雄】

【部落解放センター運営委員・監事】

【委員】★大杉弘(若草、○井上昌保(野幌)、○奥野力(膳所)、○鈴木秀信(船橋)、○滝川英子(七里、○宮澤淳子(須坂)、○森啓一(梅ヶ丘)

【委員】★小橋孝一(新島、

長山信夫(銀座)、島田勝彦(清水ヶ丘)、深谷春男(東京聖書学校吉川)、○小林貞夫



2日間にわたり5時間以上を割き

日本の社会構造の変化だけを伝道不振の理由にはできない。伝道の進展している教派もある。伝道方策をいろいろ言う前に、伝道基礎理論を確立せねばならない。1964年の宣教基礎理論が、今から見れば問題であった。伝道を教会の



江本義一常議員は、『教会の体質改善』という名の社会運動をして、教会は拡がらなかった。方策どうなるものでもない」と述べ、

教会は教会でなくなる」とし、「教会と国家の問題も重要だが、十字架の贖いに徹する」とした。

れを共有できる部分はまだあるだろう」と述べた。

河田直子常議員は、「教会にしかない『十字架による罪の贖い』『による救い』を

を語る者を立てる。財政的に厳しい教会が伝道礼拝を行いたいとき、それを支える。議長が先頭に立つて、教会が元気になる会を。付

『方策』という言葉の使い  
方への違和感を最初にもつ  
た。本気でやるなら、全教  
団的・全教区的に盛り上げ  
るために、教団史（教団の

三上裕二氏（無任所教師）  
10年10月25日、逝去。  
埼玉県に生まれる。  
年東京聖書学校を卒業、  
年都農教会に赴任、志木教

正教師登録  
大澤 香、永倉直嗣  
長谷川 渉  
(2010.11.22受按)  
岡田いわお、管家英治、

お知らせ

事務局報

年東京聖書学校を卒業、'58年都農教会に赴任、志木教

(2010.11.22受按)

充一頁里月頁



日本キリスト教協議会  
辞(教)飯島 信

ください。

◎日時 2011年1月21

10年11月24日、逝去。  
7557

就(主)吉沼詳夫  
辞(主)芳賀康祐

◎主催 東京地区原理問題  
連絡会（新宿区西早稲田）

---

---

---



## 常議員(信徒) プロフィール

- (1) 誕生年
- (2) 出身地
- (3) 受洗(年、教会、牧師)
- (4) 趣味
- (5) 愛唱聖句(聖書箇所)
- (6) 抱負

◎ 順不同

江本 義一



大阪教区  
茨木東教会

色々なことを考えたり、風景を楽しんだりする。

- (1) 1935年
- (2) 山口県岩国市
- (3) 1960年・新居浜西部教会・藤川武治牧師
- (4) 散歩。毎日ではないが、かなり遠くまで3〜4時間かけて散歩する。健康のためでもあるが
- (5) ローマの信徒への手紙13章12節
- (6) 教団の教勢低下は目を覆うばかりである。教団の問題は山積みしているが改善は遅々として進まない。何とかしなければならぬと思っている。

鈴木 功男



東京教区  
目白教会

- (1) 1934年
- (2) 名古屋
- (3) 1961年・目白教会・篠原金蔵牧師
- (4) 山歩き、音楽、企画癖
- (5) テサロニケの信徒への手紙一5章16〜18節
- (6) 一致して伝道・熱い教団。

望月 克仁



神奈川教区  
鎌倉ノ下教会

- (1) 1932年
- (2) 東京
- (3) 1961年・鎌倉ノ下教会・松尾造酒蔵牧師
- (4) スキー、テニス
- (5) ローマの信徒への手紙10章17節、ガラテヤの信徒への手紙6章2〜5節
- (6) 讃美歌第二編1番を心としたい。

岡田 義信



東京教区  
田園調布教会  
現在・事業

- (1) 1939年11月20日
- (2) 東京都
- (3) 田園調布教会・1941年幼児洗礼・1953年信仰告白・岡田五作牧師
- (4) 過去・テニス・ゴルフ、
- (5) コリントの信徒への手紙13章13節
- (6) 全国の教会・伝道所における福音伝道の業が前進するために、信仰告白と教憲・教規において教団が一致することに努力を注ぎたい。

松尾 亨



奥羽教区  
青森松原教会

- (1) 1937年
- (2) 青森県青森市
- (3) 1956年・秋田一番町教会(現秋田高陽教会)・堀合嘉綱牧師
- (4) 書道・音楽(ハッパ、
- (5) コリントの信徒への手紙一6章20節
- (6) 教団の各教会・伝道所が更に伝道する教会になることを目指し、教団が主を愛し主を畏れつつ教憲・教規に立つことを願う。

川原 正言



西東京教区  
南三鷹教会

- (1) 1937年
- (2) 鹿児島
- (3) 1952年・鹿児島城南教会・澤田鈴蔵牧師
- (4) オカリナ、水泳、最近筆でお習字
- (5) マタイによる福音書17章20節
- (6) 伝道に熱く燃える教団が形成できるように、全教会が力をあわせられるように、先立って歩まれる主について行きたいと思います。

小林 貞夫



東海教区  
日下部教会

- (1) 1929年
- (2) 山梨県山梨市
- (3) 1931年・日下部教会・小野善太郎牧師
- (4) 趣味は「教会」ということ
- (5) コリントの信徒への手紙一1章22〜23節
- (6) 聖礼典の一致を確立し、大胆で多様な伝道を展開したい。信徒の集まりを強化したい。

佐久間 文雄



関東教区  
志木教会

- (1) 1938年1月1日
- (2) 東京都世田谷区
- (3) 1960年4月17日・国際基督教団 代々木教会・吉本斗川牧師、1967年より現在の志木教会に所属
- (4) ゴルフ、カラオケ、旅行
- (5) ローマの信徒への手紙12章11〜12節
- (6) 主の再臨を熱望しつつ主の栄光を表すものとして微力ながら参りたい。愚直に信仰告白に立って「十字架の救い」を伝えたい。

遠藤 道雄



東北教区  
福島伊達教会

- (1) 1933年4月22日
- (2) 福島県伊達市
- (3) 幼児洗礼、信仰告白
- (4) 1961年4月・福島伊達教会・本宮幸四郎牧師
- (5) エフエソの信徒への手紙4章30節、5章10節
- (6) 各委員会が教団の教憲教規に則り信仰告白を告白しつつ活動し、更に、沖縄教区が一日も早く教団の諸活動に加わることを切に祈る。

高橋 豊



西東京教区  
白鷺教会

- (1) 1932年
- (2) 愛媛県西条市
- (3) 1955年・岩国教会・高倉徹牧師
- (4) ピアノ演奏・ハッパ教会力ンタータを毎日聴く。
- (5) ローマの信徒への手紙5章3〜5節
- (6) ①教師とともに重荷を担う。②教師と信徒の絆が深められてゆく教団。③教師を立て教師の生活を守ることを最重要視。

寺岡 恭仁子



四国教区  
屋島教会

- (1) 1939年
- (2) 香川県高松市
- (3) 1956年・高松教会・野町良夫牧師
- (4) 読書、旅行
- (5) コリントの信徒への手紙一13章13節
- (6) 厳しい対立と不信の中で地方の普通の信徒に何が出来るか。聖書の御言葉を送り出して下さった方々の祈りに支えられたい。

河田 直子



東中国教区  
蕃山町教会

- (1) 1950年
- (2) 香川県高松市
- (3) 1986年・蕃山町教会・秋山徹牧師
- (4) 読書・音楽&美術鑑賞・茶道(裏千家)
- (5) 詩編139編、イザヤ書43章1〜5節、フィリピの信徒への手紙3章12〜14節
- (6) 御子の血によって贖い取られた神の教会の群れが信仰告白によって一致し、説教と聖礼典のつとめを何よりも大切にして、伝道に励めますように(信仰はまだまだ若く小さな私です。ただ主のために用いられますよう、どうかお祈りでお支えください)。

大杉 弘



中部教区  
若草教会

- (1) 1933年
- (2) 石川県
- (3) 1973年・若草教会・井上良彦牧師
- (4) ウォーキング
- (5) 詩篇23編(1955年改訳)
- (6) 第37回日本基督教団総会は、主題に「教団の一致はいすこい?」御霊の導きを渴望しつつ」を掲げた。しかし、退席した教区があり、教職が揃って聖餐に与らなかつた教区があった。どのような聖言を語り、牧会がなされているのだろうか。その教区の信徒らの思いは如何ばかりであろうか。悲しい。

